

シンポジウム「国際卓越研究大学としての SOKAP が描く未来社会像の構想」で講演しました (2025/11/17)

テーマ：第7期科学技術・イノベーション基本計画、SOKAP、社会価値の創造

会場：AP 日本橋（東京都中央区）、オンライン

URL：<https://www.tohoku.ac.jp/japanese/2025/10/event20251014-02-kenkyo.html>

第7期科学技術・イノベーション基本計画の共創に向けた全国キャラバンの一環として、内閣府科学技術・イノベーション推進事務局と東北大学が主催するシンポジウム「国際卓越研究大学としての SOKAP が描く未来社会像の構想」が 11 月 17 日に開催され、当研究所から越村俊一教授（災害ジオインフォマティクス研究分野）が登壇しました。

科学技術・イノベーション基本計画は、科学技術基本法に基づいて策定される日本の科学技術政策の基本計画であり、2026年度から第7期がスタートします。シンポジウムの冒頭、内閣府科学技術・イノベーション推進事務局の永澤剛参事官より、第7期の方向性について説明がありました。

次に越村教授が「災害デジタルツインのいま・みらい、そして世界の BOSAI への日本の貢献」と題して基調講演を行いました。

災害デジタルツインは、地形、道路、構造物、人流、地球観測データを使って現実世界と対になる双子（ツイン）をデジタル（仮想）世界上に構築し、様々なシミュレーションや政策・適応策の評価を可能にする仕組みです。災害であれば、被害を小さく抑えるためにはどうすれば良いか、双子として作られた仮想世界でシミュレーションして実際の対応の向上や事業の改善に反映させることが可能になります。越村教授のチームが取り組んでいる「リアルタイム津波浸水被害予測システム」は既に社会実装されていますが、多くの研究者との協働により、海底観測網によるリアルタイム観測値とのデータ同化、携帯電話位置情報による人流データとの組み合わせ、量子技術を使った救援ルートの組み合わせ最適化などを進め、予測情報の更なる高度化を目指していると話しました。

後半のパネルディスカッションは、東北大学の小谷元子理事を始めとする7人が参加し、大学からの社会価値の創造について意見が交わされました。

シンポジウムのタイトルにある SOKAP は、東北大学が立ち上げたプラットフォームで、持続可能な社会の実現に向けて多様なステークホルダーとの共創を通じて最先端の知を迅速にアクションに繋げることを目指しています（Sustainability Open Knowledge-Action Platform の略）。越村教授は「災害科学は、研究成果が世の中で役に立つことが大切なので、大学発スタートアップの会社^{注1}を設立して社会実装に取り組んでいる。事業に持続性を持たせるために、ビジネスとして対価をもらうことが必要。知を社会に役立ててビジネスとして成り立たせるようなマインドを持った若い人を育てたい」と話しました。

注1：大学発スタートアップの株式会社 RTi-cast は 2024 年に民間事業者として初の津波予報業務許可を取得し、リアルタイム津波浸水被害予測システムで生み出す予測情報「TsunamiCast」の提供を事業として展開している。

<https://www.tohoku.ac.jp/japanese/2024/04/press20240408-01-cast.html>

また、海外展開を視野に入れ、2025 年に Terra-cast 合同会社を設立した。



「災害デジタルツインのいま・未来、そして世界の BOSAI への日本の貢献」
と題して基調講演をする越村俊一教授